

大学・高専機能強化支援事業（支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学 一般枠、特例枠】実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F116110105312	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（一般枠）
大学名	富山大学	設置区分	国立	事業計画名	富山高専及び地域企業等と連携した富山大学高度DX人材育成事業
学校種	大学	都道府県	富山県		

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和5年度	【情報系組織の入学定員】<博士>5人、<修士>34人、<学士>135人 理工学教育部（博士課程）物理・ヒューマンシステム科学専攻（入学定員5名） 理工学研究所（修士課程）理工学専攻 数理解情報プログラム（入学定員34名） 理学部数学科（入学定員45名） 工学部工学科知能情報工学科（入学定員90名） 8月 理学部理学科（数学プログラム、数理解情報プログラム 他）学科の設置届出予定 8月 理工学研究所（博士課程）理工学専攻（数理解情報学・データサイエンスプログラム 他） 研究科の専攻に係る課程の変更届出予定 ①10月 学生数増のための工学部電気系実験研究棟実験室改修工事の実施（竣工予定：12月） ②10月 学生数増のための工学部電気系実験研究棟未室改修工事の実施（竣工予定：12月） ・10月 大学・高専間ネットワーク環境整備検討チームを発足(次年度の富山大学富山高専間通信環境整備のため) ③1月～3月 理学系教育体制の整備(数理解情報学プログラム、バイオノミクス担当実務家教員計3名採用予定) ④1月～3月 工学系教育体制の整備(人工知能応用、量子制御担当実務家教員2名採用予定) ⑤1月 理工学研究所等実践的教育のための教員確保(学外者複数名が「数理解情報学特別演習」等の一部を担当) ⑥1月 学生数増のための工事(上記①)の完了に伴う計測機設備、計測器設備等の導入 ⑦1月 学生数増のための工事(上記②)の完了に伴う計測サーバの導入	【情報系組織の入学定員】<博士>5人、<修士>34人、<学士>135人 理工学教育部（博士課程）物理・ヒューマンシステム科学専攻（入学定員5名）【承認日：R6.2.9】 理工学研究所（修士課程）理工学専攻 数理解情報プログラム（入学定員34名） 理学部数学科（入学定員45名） 工学部工学科知能情報工学科（入学定員90名） 8月 理学部理学科（数学プログラム、数理解情報プログラム 他）学科の設置届出 8月 理工学研究所（博士課程）理工学専攻（数理解情報学・データサイエンスプログラム 他） 研究科の専攻に係る課程の変更届出 ①11月 学生数増のための工学部電気系実験研究棟実験室改修工事の実施（竣工：11月） ②11月 学生数増のための工学部電気系実験研究棟未室改修工事の実施（竣工：11月） ・10月 大学・高専間ネットワーク環境整備検討チームを発足(次年度の富山大学富山高専間通信環境整備のため) ③3月 理学系教育体制の整備(数理解情報学プログラム1名採用予定)【承認日：R6.2.9】 【旧枠削除】【承認日：R6.2.9】 ④11月 理工学研究所等実践的教育のための教員確保（学外者「地方創生環境学」の一部を担当）【承認日：R6.2.9】 ⑤11月～3月 学生数増のための工事(上記①)の完了に伴う計測機設備、計測器設備等の導入 ⑥1月～2月 学生数増のための工事(上記②)の完了に伴う計測機設備の導入【承認日：R6.2.9】 ⑦2月 学生数増のための工学部電気系実験研究棟実験室改修工事の実施（竣工：3月）【承認日：R6.2.9】 ⑧2月～3月 学生数増(学士課程数プログラム、数理解情報学プログラムの設置、修士課程数理解情報プログラム、及び博士課程数理解情報学・データサイエンスプログラム増員)に伴う計測機設備、計測器設備等の導入【承認日：R6.2.9】 ⑨3月 学生数増のための工事(上記②)の完了に伴うプロジェクトの導入【承認日：R6.2.9】	R5年度自己評価 【3】計画を十分に実施している。 【教育体制の整備(人事)】 今年度の常勤教員採用は5名を予定していたが、年度内に採用出来た教員は1名に留まった。但し令和6年4月には新たに3名を採用した。今後は早急に大学院における研究指導体制を強化する。 令和5年度採用予定としていた残り1名については、既存の同分野教員でカバーしつつ、一刻も早く採用と出来るよう公募を継続する。なお、年度内に採用となった教員によりこれまでカバー出来ていなかった数理解モデルのプログラマー自動最適化に関する研究が可能となっている。 また、授業の面では大学院授業「光通信システム」「深層学習とその応用特論」「相互作用系特論」他多数の授業を当該事業に対応したカリキュラム強化のため新設した。併せて、大学院での教育の質向上に加え、学部から学生に意識向上や専門性を高めるため、非常勤による選抜科目群を強化する予定である。 【教育体制の整備(設備)】 (理系系) 計算機、サーバ、プロジェクター等を導入、これによりプログラミング実習やプログラムを作成する環境を整備すると同時に学生が暗号数理解に関する大規模計算、及び機械学習を用いた大規模データ解析を可能とした。また、数理解情報分野において遺伝子データ解析を実施する装置を導入した。 (工学系) 情報系実験室・端末室・講義室等全8室に改修工事を実施、次年度に博士・修士・学士さらに新設する分野教員など、それぞれの増員分を受け入れ、かつ多数の授業新設に対応する体制を整えた。
	令和6年度	【情報系組織の入学定員】<博士>11人、<修士>58人、<学士>165人 理工学研究所（博士課程）理工学専攻 数理解情報学・データサイエンスプログラム設置・6名増員（入学定員11名（大学院博士課程早期修了プログラム導入2名を含む）） 理工学研究所（修士課程）理工学専攻 数理解情報学プログラム24名増員（入学定員58名） 理学部理学科数学プログラム設置（入学定員25名）、数理解情報学プログラム設置（入学定員35名）・計15名増員 工学部工学科知能情報工学科15名増員（入学定員105名） ①4月～3月 富山高専教育体制の整備(AI・MOT担当実務家教員2名採用予定) ②4月～3月 理学系教育体制の整備(数理解情報学プログラム、バイオノミクス担当実務家教員計3名採用予定) ③4月～3月 工学系教育体制の整備(人工知能応用、量子制御担当実務家教員2名採用予定) ④4月～3月 理工学研究所等実践的教育のための教員確保 (学外者複数名が「数理解情報学特別演習」等の一部を担当) ⑤4月 学生数増のための理学部2号館教室改修工事の実施（竣工予定：9月） ⑥4月 教員・学生の共同研究及び双方方向授業等実施のための大学高専間ネットワーク環境整備機器購入 (前年度発足の「大学・高専間ネットワーク環境整備検討チーム」にて機器詳細については改めて検討する。) ⑦4月 理学部計測機演習実施のための計算サーバ購入 ⑧4月 理学部計測機サーバ購入(上記⑦)に伴う保守契約開始 ⑨8月 学生数増のための工学部共通講義棟実験室改修工事の実施（竣工予定：12月） ⑩9月 学生数増のための工事(上記⑤)完了に伴う大型ディスプレイ、プロジェクタの設置	【情報系組織の入学定員】<博士>11人、<修士>58人、<学士>165人 理工学研究所（博士課程）理工学専攻 数理解情報学・データサイエンスプログラム設置・6名増員（入学定員11名（大学院博士課程早期修了プログラム導入2名を含む）） 理工学研究所（修士課程）理工学専攻 数理解情報学プログラム24名増員（入学定員58名） 理学部理学科数学プログラム設置（入学定員25名）、数理解情報学プログラム設置（入学定員35名）・計15名増員 工学部工学科知能情報工学科15名増員（入学定員105名） ①4月～3月 富山高専教育体制の整備(AI・MOT担当実務家教員2名採用) ②4月～3月 理学系教育体制の整備(数理解情報学プログラム、バイオノミクス担当実務家教員計3名採用) ③4月～3月 工学系教育体制の整備(人工知能応用、量子制御担当実務家教員2名採用) ④4月～3月 理工学研究所等実践的教育のための教員確保 (学外者複数名が「DX概論」等を担当)【承認日：R7.3.31】 ⑤4月 学生数増のための理学部2号館教室改修工事の実施（竣工：5月） ⑥3月 教員・学生の共同研究及び双方方向授業等実施のための大学高専間ネットワーク環境整備機器購入 ⑦6月 理学部計測機演習実施のための計算サーバ購入 【旧枠削除】【承認日：R7.3.31】 ⑧8月 学生実験施設確保のための工学部管理棟Ⅱ1270室等改修工事の実施（竣工：10月） ⑨1月 実務家教員の居宅整備のための工学部電子情報実験棟5206室改修工事の実施（竣工：3月） ⑩1月 実験教育用施設整備のための共通講義棟他2階2204-1室等内部改修工事の実施（竣工：3月） ⑪2月 教育・研究用什器設置のための共通教育棟改修工事の実施（竣工：2月） ⑫1月 学生数増のための工事(上記⑤)完了に伴う大型ディスプレイの設置
令和7年度	【情報系組織の入学定員】<博士>11人、<修士>58人、<学士>165人 ①4月～3月 富山高専教育体制の整備(AI・MOT担当実務家教員2名採用予定) ②4月～3月 理学系教育体制の整備(数理解情報学プログラム、バイオノミクス担当実務家教員計3名採用予定) ③4月～3月 工学系教育体制の整備(人工知能応用、量子制御担当実務家教員2名採用予定) ④4月～3月 理工学研究所等実践的教育のための教員確保(学外者複数名が「数理解情報学特別演習」等の一部を担当) ⑤4月 工学部電子情報系実験研究棟実験室改修工事の実施（竣工予定：9月） ⑥4月 理学部計測機サーバ（R6年度購入）保守	R7年度自己評価 リストから選択してください。	
令和8年度	【情報系組織の入学定員】<博士>13人、<修士>61人、<学士>165人 理工学研究所（博士課程）理工学専攻 数理解情報学・データサイエンスプログラム2名増員（入学定員13名） 理学部理学科（修士課程）理工学専攻 数理解情報学プログラム3名（富山高専特別枠設置分）増員（入学定員61名） ①4月～3月 富山高専教育体制の整備(AI・MOT担当実務家教員2名採用予定) ②4月～3月 理学系教育体制の整備(数理解情報学プログラム、バイオノミクス担当実務家教員計3名採用予定) ③4月～3月 工学系教育体制の整備(人工知能応用、量子制御担当実務家教員2名採用予定) ④4月～3月 理工学研究所等実践的教育のための教員確保 (学外者複数名が「数理解情報学特別演習」等の一部を担当) ⑤4月 理学部計測機サーバ（R6年度購入）保守 ・4月（高専・専攻科）「AIトップ人材育成プログラム」の新設 ・修了生、卒業生の情報系企業、地元企業就職率等を踏まえた検討・協議 ・初等中等教育段階の学校との連携に係る効果の検証・協議	R8年度自己評価 リストから選択してください。	
令和9年度	【情報系組織の入学定員】<博士>13人、<修士>61人、<学士>165人 ①4月～3月 富山高専教育体制の整備(AI・MOT担当実務家教員2名採用予定) ②4月～3月 理学系教育体制の整備(数理解情報学プログラム、バイオノミクス担当実務家教員計3名採用予定) ③4月～3月 工学系教育体制の整備(人工知能応用、量子制御担当実務家教員2名採用予定) ④4月～3月 理工学研究所等実践的教育のための教員確保 (学外者複数名が「数理解情報学特別演習」等の一部を担当) ⑤4月 学生数増のための工学部電子情報系実験研究棟実験室改修工事の実施（竣工予定：9月） ⑥4月 学生数増のための工学部電子情報系実験研究棟未室改修工事の実施（竣工予定：9月） ⑦4月 理学部計測機サーバ（R6年度購入）保守 ・修了生、卒業生の情報系企業、地元企業就職率の方策見直し・実施 ・初等中等教育段階の学校との連携に係る取組の見直し・実施 ・人材ニーズ等に係る地元企業等との協議	R9年度自己評価 リストから選択してください。	
令和10年度	【情報系組織の入学定員】<博士>13人、<修士>74人、<学士>165人 理工学研究所（修士課程）理工学専攻 数理解情報学プログラム13名増員（入学定員74名） ①4月～3月 富山高専教育体制の整備(AI・MOT担当実務家教員2名採用予定) ②4月～3月 理学系教育体制の整備(数理解情報学プログラム、バイオノミクス担当実務家教員計3名採用予定) ③4月～3月 工学系教育体制の整備(人工知能応用、量子制御担当実務家教員2名採用予定) ④4月～3月 理工学研究所等実践的教育のための教員確保 (学外者複数名が「数理解情報学特別演習」等の一部を担当) ⑤4月 理学部計測機演習実施のための計算サーバ購入（令和5年度購入物品の更新） ⑥4月 理学部計測機サーバ購入(上記⑤)に伴う保守契約開始	R10年度自己評価 リストから選択してください。	
令和11年度	【情報系組織の入学定員】<博士>13人、<修士>74人、<学士>165人 ①4月～3月 富山高専教育体制の整備(AI・MOT担当実務家教員2名採用予定) ②4月～3月 理学系教育体制の整備(数理解情報学プログラム、バイオノミクス担当実務家教員計3名採用予定) ③4月～3月 工学系教育体制の整備(人工知能応用、量子制御担当実務家教員2名採用予定) ④4月～3月 理工学研究所等実践的教育のための教員確保 (学外者複数名が「数理解情報学特別演習」等の一部を担当) ⑤4月 学生数増のための工学部電気系実験研究棟実験室改修工事の実施（竣工予定：9月） ⑥4月 理学部計測機サーバ（R10年度購入）保守	R11年度自己評価 リストから選択してください。	
令和12年度	【情報系組織の入学定員】<博士>15人、<修士>74人、<学士>165人 理工学研究所（博士課程）理工学専攻 数理解情報学・データサイエンスプログラム2名増員（入学定員15名） ①4月～3月 富山高専教育体制の整備(AI・MOT担当実務家教員2名採用予定) ②4月～3月 理学系教育体制の整備(数理解情報学プログラム、バイオノミクス担当実務家教員計3名採用予定) ③4月～3月 工学系教育体制の整備(人工知能応用、量子制御担当実務家教員2名採用予定) ④4月～3月 理工学研究所等実践的教育のための教員確保 (学外者複数名が「数理解情報学特別演習」等の一部を担当) ⑤4月 教員・学生の共同研究及び双方方向授業等実施のための大学高専間ネットワーク環境整備機器購入(更新) ⑥4月 理学部計測機サーバ（R10年度購入）保守	R12年度自己評価 リストから選択してください。	
令和13年度	【情報系組織の入学定員】<博士>15人、<修士>74人、<学士>165人 ①4月～3月 富山高専教育体制の整備(AI・MOT担当実務家教員2名採用予定) ②4月～3月 理学系教育体制の整備(数理解情報学プログラム、バイオノミクス担当実務家教員計3名採用予定) ③4月～3月 工学系教育体制の整備(人工知能応用、量子制御担当実務家教員2名採用予定) ④4月～3月 理工学研究所等実践的教育のための教員確保 (学外者複数名が「数理解情報学特別演習」等の一部を担当) ⑤4月 理学部計測機サーバ（R10年度購入）保守 ・修了生、卒業生の情報系企業、地元企業就職率等を踏まえた検討・協議 ・初等中等教育段階の学校との連携に係る効果の検証・協議 ・事業総括及び事業終了後の取組への検討開始	R13年度自己評価 リストから選択してください。	
令和14年度	【情報系組織の入学定員】<博士>15人、<修士>74人、<学士>165人 ①4月～3月 富山高専教育体制の整備(AI・MOT担当実務家教員2名採用予定) ②4月～3月 理学系教育体制の整備(数理解情報学プログラム、バイオノミクス担当実務家教員計3名採用予定) ③4月～3月 工学系教育体制の整備(人工知能応用、量子制御担当実務家教員2名採用予定) ④4月～3月 理工学研究所等実践的教育のための教員確保 (学外者複数名が「数理解情報学特別演習」等の一部を担当) ⑤4月 理学部計測機サーバ（R10年度購入）保守 ・修了生、卒業生の情報系企業、地元企業就職率の方策見直し・実施 ・初等中等教育段階の学校との連携に係る取組の見直し・実施 ・人材ニーズ等に係る地元企業等との協議 ・事業総括及び事業後(11年目以降)の取組への検討	R14年度自己評価 リストから選択してください。	

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	富山大学
-------------	-------	-----	------

2. 申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

3. 申請要件の取組状況

令和5年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。				
	<table border="1"> <tr> <td>確認を受けている</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> <tr> <td>対象に該当しない</td> <td><input type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック
確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック				
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見直しを備えた計画となっていること。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な資保証の枠組みを活用するなど出口における資保証にも十分留意することが重要。）				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
⑤	計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）、以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学期において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
⑧	教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）				
	<table border="1"> <tr> <td>既設の情報系分野に係る研究科等を有する</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	既設の情報系分野に係る研究科等を有する	<input checked="" type="checkbox"/> チェック		
既設の情報系分野に係る研究科等を有する	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
⑨	機構による事業計画の進定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
⑩	計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）、15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）、5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
⑪	国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時まで他に学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック		
計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
⑫	教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画となっていること。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
⑬	文部科学省が実施する数理・データサイエンス・A1教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。				
	<table border="1"> <tr> <td>認定を受けている、又は対象に該当しない</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> <tr> <td>認定を受ける計画が進んでいる</td> <td><input type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	認定を受けている、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	認定を受ける計画が進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック
認定を受けている、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
認定を受ける計画が進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック				

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	富山大学
-------------	-------	-----	------

⑤ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でいいと。

認定を受けておらず申請する意向もない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
--------------------	--

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>地域の連携については、経済団体である富山経済同友会やインテック等の民間企業と連携を行う。県内の高度情報専門人材の育成にはその拠点となる場所が必要となる。富山大学がその役割を担うとともに、高度情報専門人材を育成するための実務家教員を採用し地元企業における大学院生のインターンシップ等を実施し、進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。</p>	<p>富山大学がデータサイエンス人材育成の拠点となるべく、学内に関係事業や担当内容を共有する連絡会を立ち上げ、定期的に情報共有を図り、より一体的に推進できる体制を整えた。理工学研究科においては、NTTデータ経営研究所の実務家教員を招き「地域創生環境学」の講義を実施したほか、ルネサスエレクトロニクス、ソフトクリエイ等の実務家教員による「ミラ波センシング技術」、「社会／企業でのDX推進のためのコンテンツ作成」など、計7つの授業を新設した。また、今後実務家教員による授業をより拡大するため、インテック社にも依頼し協議を行っている。上記授業の一部はインターンシップ型の授業として、現地企業において実践的な実習を行うことを内容としており、来年度以降は更に他の企業でも参加頂けるよう働きかける予定としている。学内の社会人入学生等については富山期だけでなく、東京、愛知、大阪などの主要都市の企業向けにも入学案内を行っている。社会人博士前期課程では今年度1名の入学実績がある。また、来年度も既に名入学を予定しており、感次対話フォーラムや社会人の現場での研究開発実務を考慮した修了要件など社会人の受け入れのための学内整備を行う予定である。地域との連携では、社会人教育推進事業（DS特別講座：465名受講等）や産学官金連携事業（DX学修セミナー：計7回、315名受講等）を開催したほか、「とやまデータサイエンス推進連絡協議会」を令和5年度は2回開催し、社会人を対象としたプロジェクトマネジメント講座の開催や、各種セミナー等の実践演習を県や市の職員研修にも活用する等と決定し、本学との連携をさらに強化することを確認した。引き続き、種々の講座開催等を通じて、高度情報専門人材の教育ノウハウの成果等を広く県内の関係組織等に還元していく。</p>	<p>本年度に関しては先方の都合や派遣者の関係等から実務家教員は期間内雇用形態となった。来年度以降、クロスアポイントメント制度を適用できるよう引き続き協議を継続していく予定である。</p>

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>とやまデータサイエンス推進連絡協議会を富山大学が中心となり設置し、富山高専専門学校・富山県・富山市と連携しながら、データサイエンス人材の育成を支援する体制整備を既に進めている所である。現在は県内小・中・高等学校・特別支援学校に対して、GIGAスクール構想に基づいて進められているICT活用教育の推進および小学校が社会人入生に至るまでの継続したデータサイエンス教育の推進のための連携活動を令和3年度より実施しており、教員対象オンラインセミナー開催、研修会での指導指書、授業支援等を行っている（令和3年度受講者：延約1000名、令和4年度：約2000名）。同時に児童生徒向け授業を実施（令和3年度1回、令和4年度119回）、またその他に富山県青少年センターコンテスト開催（令和4年度までに58本）や実践事例集、ガイドブックの作成、配布、県内小学校でのオンライン個別学習に際しての指導、助産等の支援活動などを幅広く行っているが、今後はこの取組の更なる拡大を図って行く予定である。</p>	<p>富山高専専門学校、富山県や富山市と連携し、教員研修支援（オンラインセミナー：354名受講、学校への講師派遣：196名受講、県・市教育委員会研修：526名受講）、児童生徒支援（大学院生による学校支援：124回、訪問型児童生徒対象支援講演会：計19回、1,549名受講、県内高校生による「とやま探究フォーラム」：約500名参加）、保護者等研修（講演会：計10回、581名受講）を実施したほか、学校教員向けのオンデマンドコンテンツを指導主事や学校教員によるICT活用事例コンテンツとして新規に9本作成した。また、「『情報1』実践事例集」を刊行し県内高等学校に、「『データサイエンスにつながる学び』ガイドブック」を刊行し県内小・中・高校に配布した。海外の学校と小・中・高校で交流しているESD活動においては、ICTを活用したオンライン交流、令和5年11月にはマレーシアから訪問型を受け入れ、富山市内小学校との交流を図った。上記のほか、「とやまデータサイエンス推進連絡協議会」を開催し、その中で、特に教員向けオンデマンドコンテンツについては、視察する教員が自身のICTを活用した授業の改善に活かせるような内容で作成することを確認した。今後引き続き上記の取組みを継続していくとともに、地域や社会の課題及び防災対策等についても、地元企業等の協力を得ながら支援を行う予定としている。</p>	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>修士課程修了後に就職する優秀な学生や、既に企業で研究実績がある社会人向けに「情報系社会人のための修士課程短期修了プログラム」を令和6年度より新設する。通常3年間の修士課程修了と同等、あるいはそれ以上の実力を持った修士課程修了生や社会人向けに、入学時「学術論文の有無のほか、企業での特許等の業績審査を行うことで、1年間で博士論文を完成させるための教育研究指導体制を確立する。同時にオンデマンド型やオンライン型で指導できる体制を整え、豊内在住者以外に地方からの需要を広く開拓する。また、工学部知能情報工学科では令和6年度入試から女子学生特別推薦枠を設け、かつ令和7年度入試から、入試科目の見直しを行い、個別学力試験で理科と理系を記入し方法を併用することで、女子学生の入学促進を図る。これは近年の伸びの大きい現場における女性技術者のニーズの高まりと社会からの理工系女性人材育成の要請に応える計画となる。また、外国入留学生の確保においては、日本学生支援機構が開催する日本留学フェア及び進学説明会に参加し、国内外へのPRを通じて大学院留学生の積極的な確保に取り組んでいる。以上のように各課程において多様な学生を受け入れる取組を行っている。</p>	<p>令和6年度より新設する「情報系社会人のための修士課程短期修了プログラム」について、特に富山県内の企業を対象とした個別説明会を20回実施した。社会人学生が自身の仕事と無理なく講義を受講出来るように、オンラインであるいは夕刻（18:00～）からの開講や、オンデマンド型講義の拡充を行うこととしている。オンライン型やオンデマンド型の指導体制を整備し、令和6年度に向けて試験的運用を開始した。なお、同運用を通じて明らかになった課題を次年度以降の学内整備等に活かす予定としている。工学部知能情報工学科の女子学生特別推薦枠については、同制度を利用した3名の入学者があった。富山県内の高等学校向けに令和5年度は2回の説明会を実施した。また外国入留学生については新たに8名の入学を予定している（10月入学含む）、今後も引き続きホームページ等を利用して各種説明会の実施等を通じて、制度等の継続的な周知活動や多くの志願者の獲得及び入学者の促進を図っていく。</p>	

④ 他の大学（外国大学を含む）、高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>富山高専専門学校は、全国の国立高等専の中でも2つしかないデータサイエンスの拠点校に選ばれており、また、令和8年度から高度情報専門人材を体系的に育成する「A1トップ人材育成プログラム」を専攻科生を対象にして新たに設ける予定である。富山大学は、高度情報専門人材の育成を効果的に行うために、令和8年度入試より富山高専との間で3名の修士課程高等特別枠を設ける予定である。地元への進学先から地元への就職率も高い富山高専の学生が富山大学で専攻科生として富山県就職率を高めることにも貢献が非常に有用である。また、富山高専の学生が資料や専攻科の発展で短期に大学院等の授業を受講できる新たな仕組み作りに着目し、学生本人の研究内容の継続や今後の研究への興味の特長にも関する。さら、両校の教員が高度情報専門人材の育成に資する共同研究を推進し、学生を組織的に管理・育成する。こうした取組を通じて、富山大学としてもデータサイエンス拠点校である富山高専の優秀な学生と積極的に交流を持つことにより、自身の研究を更に深化・発展させる組織効果も期待でき、また、上・下レベルの人材育成や地元企業へ人材を供給するといった地域ニーズを満たすことが両校の緊密な連携により可能となる。</p>	<p>富山大学と富山高専専門学校との連携のため、両校関係者による連絡協議会を設置し、令和5年度は計4回（対面合同会議2回、オンライン会議2回）実施し、今後の連携及び協力を密にするため取りむかるとともに、今後も定期的に同協議会を開催していくこととしている。さらに大学・高等専攻科生による、オンデマンドによる授業や学生にとっての効果的な授業等の在り方等を検討する打合せを引き続き行っている。富山高専専門学校の学生に対しては、富山大学の教員より計2回（射水キャンパス及び本郷キャンパス）大学の研究内容等に係る説明会を実施し、さらに、そのような説明会の中で特に興味を示した富山高専専門学校射水キャンパスの専攻科生5名に対しては、引き続き個別に詳細な説明会を実施した。また、富山大学での研究内容や設備を知ってもらいたい。富山高専専門学校の学生向けに、大学の研究室を訪問する機会を提供し、高等より4名の専攻科生が参加があった。今後も引き続き両校による連絡協議会等を通じて、両校学生に対する効果的な教育体制整備や授業形態及び令和8年度の特別枠設置に向けた協議を実施していく予定である。</p>	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	富山大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額措置を受けた大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校等の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。	
	確認を受けている <input checked="" type="checkbox"/> チェック 対象に該当しない <input type="checkbox"/> チェック	
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見直しを備えた計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な資格保証の枠組みを活用するなど出口における資格保証にも十分留意することが重要。）	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑤	計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）、以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学期において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑧	教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種別分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種別分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）	
	既設の情報系分野に係る研究科等を有する <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑨	機構による事業計画の進定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑩	計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑪	国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時まで他に学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑫	教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑬	文部科学省が実施する数理・データサイエンス・A1教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。	
	認定を受けている、又は対象に該当しない <input checked="" type="checkbox"/> チェック 認定を受ける計画が進んでいる <input type="checkbox"/> チェック	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	富山大学
-------------	-------	-----	------

⑤ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
--------------------	--

4. 審査事項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合は、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できず、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績・進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>地域の連携については、経済団体である富山経済開発委員会やインテック等の民間企業と連携を行う。県内の高度情報専門人材の育成にはその拠点が必要なことから、富山大学がその役割を担うとともに、高度情報専門人材を育成するための実務系教員の採用や地元企業における大学院生のインターンシップを推進し、通常の講義や机上では理解することが難しい、実務における考え方や問題解決の方法等を身に付けることに繋げる。こうした産学系企業からの複数の実務系教員のクロスアポイントメント制度等を利用して活用を計画している。また、富山大学大学院企業系の高度情報専門人材の育成と連携して活用できるよう社会人入学等の仕組みを構築していく。さらに、本事業によるデータサイエンスに関する取組により、高度情報専門人材育成のための教育ノウハウの蓄積を県内各地域に広げたい。具体的に、本学では、既に富山県・富山市の両方で「データサイエンス推進連絡協議会」が設置されており、このネットワークを通じて、既に実施されている県内中学校教員向けの研修、社会人を対象とした講座の開催、県内企業や自治体におけるDXの推進支援等を更に拡充していく予定である。</p>	<p>令和6年度から開講している大学院における実務系教員によるPBL型の授業（富山県単「サイバー犯罪とセキュリティ」、地元企業のインテックAIと画像解析技術の応用）、トヨタシステムズ「モビリティ業界におけるシステム開発概論」に加え、令和7年度には、Amazon Web Service社（AWS）から最先端の生成AIに関してPBL型授業が提供される予定である。同様にインターンシップ授業（令和6年度実績で、ソフトウェア「社会/企業」のDX推進のためのコンテンツ作成）、ルネサスエレクトロニクス「ミ波センシング」についても、地元企業や共同研究先企業から、引き続き、提供を募ることとしている。</p> <p>前期課程と後期課程の進学学生数は、令和7年4月入学時点で、それぞれ64名と10名に達し、令和7年10月入学分（主に他大学からの留学生10名程度）を含め、令和8年度に大学院の定員数（博士前期課程定員計61名、博士後期課程定員計13名）を行った後の人数に到達する見込みである。</p> <p>また、博士後期課程の社会人は3名（10月入学も含めると5名予定）の入学実績があるが、オンライン・オンデマンド型の遠隔指導の充実を図り、今後も積極的なスクーリングの機会を提供する予定である。</p> <p>地域との連携では、社会人教育推進事業（DS特別講座、実習：1,049名受講）や産学資金連携事業（DX学修セミナー、ワークショップ：計6回、654名受講）を開催したほか、「データサイエンス推進連絡協議会」を令和6年度は2回開催し、社会人を対象としたB2ツールを活用、学習系AI基盤、生成系AI基礎に関する講座の開催や、各種セミナー等の実践演習を県や市の職員研修にも活用する、職場のリーダーにIT/サポートを取得させる等を決定し、本学の連携をさらに強化することを確認した。引き続き、種々の講座開催等を通じて、高度情報専門人材の教育ノウハウの成果等を広く県内の関係組織等に還元していく。</p>	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績・進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>「データサイエンス推進連絡協議会」を富山大学が中心となり設置し、富山高等専門学校・富山県・富山市と連携しながら、データサイエンス人材の育成を支援する体制整備を既に進めている所である。現在は、県内小・中・高等学校・特別支援学校に対し、GIGAスクール構想に基づいて進められているICT活用教育の推進および小学校から社会人に至るまでの幅広いデータサイエンス教育の推進のための支援活動を令和3年度より実施しており、教員向けオンラインセミナー開催、研修等での指導助言、授業支援等を行っている（令和3年度受講生：延べ約1000名、令和4年度：約2000名）。同時に児童生徒向け授業を実施（令和3年度9回、令和4年度11回）、またそのほか教員研修オンラインコミュニティ講座（令和4年度まで258回）実地実習型、フィールドワーク作成、配布、県内小中学校で1年生の小学校オンライン授業等に関しての取組、取組費の支援活動などを幅広く行っているが、今後はこの取組の更なる拡大を図っていく予定である。</p>	<p>富山高等専門学校、富山県や富山市と連携し、教員研修支援（オンラインセミナー：733名受講、学校への講師派遣：1,694名受講、県・市教育委員会研修：288名受講）、児童生徒支援（大学院生による学校支援：142回、訪問型生徒対象支援講演会：計8回、1,280名受講、県内高校生による「やま探究フォーラム」：約600名参加）、保護者等研修（講演会：計6回、261名受講）を実施したほか、学校教員向けのオンラインコンテンツを指導主事や学校教員によるICT活用事例コンテンツとして新規10本を作成した。また、「情報×探究実践事例集」及び「探究が「付」を刊行し、県内高等学校に、「データサイエンス」に関する学びガイドブックを刊行し、県内小・中学校、義務教育学校、高校、特別支援学校に配布した。海外の学校と県内小・中学校で交流しているESD活動において、ICTを活用したオンライン交流をモジュール、タイ王国、バリエイ富山県内小・中学校9校間、高校1校間で交流を図った。DXハブスクール校の支援の試行として、高校の探究活動における相談や質疑応答の機会を持ち、大学院生及び高等の専攻科生、理工系の教員がオンラインで対応したところ、大変好評であり、令和7年度の規模拡充を検討することとした。上記のほか、「データサイエンス推進連絡協議会」を開催し、その中で、特に教員向けについては、情報セキュリティに関する研修等の充実を図って欲しい旨の依頼があった。今後も上記の取り組みを継続していくとともに、探究の学習の中で地域や社会の課題及び防災対策等についても、地元企業等の協力を得ながら支援を行う予定としている。</p>	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績・進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>修士課程修了後に就職する優秀な学生や、既に企業で研究開発がある社会人向けに「情報系社会人のための修士課程早期修了プログラム」を令和6年度より開設する。通常3年間の修士課程修了と同等、あるいはそれ以上の実力を持った修士課程修了生や社会人向けに、入学時に学術論文の有無のほか、企業での特許等の業績審査を行ったうえで、1年間で博士論文をまとめるための教育研究指導体制を確立する。同時にオンデマンド型やオンライン型で指導できる体制を整え、県内在住者以外に遠方からの需要を幅広く開拓する。また、工学部知能情報工コースでは令和5年度入試から女子学生特別推薦枠を設け、かつ令和7年度入試から、入試科目の見直しを行い、個別学力試験で理科を課さない入試方法を併用することで、女子学生の入学促進を図る。これは近年の女子の現場における女性技術者の不足の解消と社会からの理工系女性人材育成の推進に込められた計画である。また、外国人留学生の確保においては、日本学生支援機構の協力を得て、日本留学プログラム及び進学説明会に参加し、国内外へのPRを通じて大学院留学生の積極的な確保に取り組んでいる。以上のように各課程において多様な学生を受け入れる取組を行っている。</p>	<p>教育情報学・データサイエンスプログラムで実施する「情報系社会人のための修士課程早期修了プログラム」について、令和6年度に1名、令和7年度に3名の入学があった。令和6年度入学の第1期生（令和7年3月修了）から協力を得て、Youtube動画（動機、研究内容、家族の反応、会社での反応）を作成し、今後の広報活動で利用する予定である。また、富山県内だけでなく、企業数が多い愛知県や東京都からの反響も多かったことから、専用相談窓口（WEBページ）を開設し、制度等の継続的な周知及び志願者の獲得、並びに入学者の促進を図っていく。</p> <p>工学部知能情報工コースでは、令和7年度入試から、個別学力試験（前期日程）で理科を課さない入試方法を併用する見直しを行った。また、3年目となる女子学生特別推薦枠では、同コースで5名の入学があり、一定数の女子学生の入学につながっている。このほか、ダイバーシティ推進センター協働で、女子学生特別推薦を実施するコースの学生インタビューの記事を冊子にし、オープンキャンパス、高校訪問等で配布することで、工学分野に興味のある女子生徒に情報提供を行った。</p>	

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績・進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>富山高等専門学校は、全国の国立高等専中をもつ2つしかないデータサイエンスの拠点校に選ばれており、また、令和8年度から高度情報専門人材を体系的に育成する「A1」プログラムの推進も、指導主事や専攻科生を対向して身に付ける予定である。富山大学は、高度情報専門人材の育成を効率的に行うため、令和5年度入試より富山高等専との間で3名の修士課程高等特別枠を設ける予定である。地元への進学率もかつて地元の就職率も高い富山高等専の学生が富山大学大学院へ進学することは県内就職率の向上にも繋がっており非常に有用である。また、富山高等専の学生が本学や専攻科の院で早期に大学院への授業を受講できる新たな仕組み作りに着手し、学生本人の研究内容の継続や今後の研究への興味を育長にも繋げる。さらには両校の教員が高度情報専門人材の育成に関する共同研究を活発に行い、学生を積極的に推薦される。こうした取組を通じて、富山大学としてデータサイエンス拠点校である富山高等専の優秀な学生と早期に交流を持つことにより、自身の研究を更に深化・発展させる相乗効果が期待でき、エキスパートレベルの人材育成や地元企業へ人材を提供するといった地域ニーズを満たすことが両校の協業連携により可能となる。</p>	<p>対面にて連絡協議会を計2回（9月・3月）開催し、進捗と計画についての情報共有と課題解決について協議した。大学院教育を進化させるとともに、レベルの高い高度情報専門人材を養成することを目的とし、令和6年5月に富山高等専門学校と大学院推薦入学に関する協定に基づき、「理工学研究科理工学専攻（博士前期課程）推薦入学における富山高等専門学校専攻科特別枠に関する規程」を締結し、6月には特別枠入試を行い、2名が合格した。</p> <p>合格が決定した学生のうち1名を配属予定研究室へ早期配属し、配属先の教員と配属先の教員が協力して研究指導を行う体制を構築した。入学後は配属元教員を研究副指導員とし、学生を参画させた両校での共同研究（研究費申請と学術論文共著）に発展させる。</p> <p>次年度受験生の獲得に向け、富山高等専門学校の学生に対して計2回（射水キャンパス及び本郷キャンパス）の説明会を実施し、興味を示した学生5名に対して研究室の見学会を実施した。また、令和7年1月に、同じ富山高等専門学校との間で「高度情報専門人材育成のための履修機会の提供に関する協定書」を締結し、令和7年度から大学院で開講する授業科目への履修機会を提供する。</p> <p>大学・高等専門学校ネットワーク構築整備についても、5月に機材選定と契約を行い、11月には機材の納品・設置が完了している。</p>	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	富山大学
-------------	-------	-----	------

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

区分	指摘事項等	対応状況
実施状況報告書留意事項 (R6年度)	○R6年度入学定員充足率が0.55倍（大学院理工学研究科理工学専攻数理情報学・データサイエンスプログラム）となっている。入学定員未充足の改善に努めること。	大学院理工学研究科理工学専攻数理情報学・データサイエンスプログラムは4月と10月の年2回、入学者受入を行っており、4月入学者のみをカウントしたR6年5月1日時点での入学者は6名（募集人員11名、入学定員充足率0.55倍）に留まったが、R6年11月1日現在、10月入学者を含めたR6年度入学者は19名、入学定員充足率1.72倍となり、入学定員未充足を解消している。

大学名	富山大学	改組内容	研究科等の設置・増員+学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	---------------------------

3-3. 学士課程

年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度		
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1,770	1,770	1,770																
		入学者数	人	1,798	1,815	1,826																
	その他の学期	入学定員	人	***	***	***																
		入学者数	人	***	***	***																
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,770	1,770	1,770																
		入学者数(B)	人	1,798	1,815	1,826																
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.02	1.03	1.03																
	収容定員等	収容定員(C)	人	7,527	7,527	7,527																
		編入学定員	人	56	56	56																
		在籍者数(D)	人	7,917	7,937	7,947																
		編入学者数	人	46	43	43																
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.05	1.05	1.06																

4. 外部資金の状況（全学）

年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	5,124,654	4,719,742																	

特記事項

理工学研究科（博士前期課程・博士後期課程）のその他の学期の入学定員0とは、若干名を意味する。
 令和7年度の理学部理学科数学プログラム及び数理学部理学科数学プログラムの入学者数は、『フォローアップに係る資料作成の手引 支援2』116頁に則り、同プログラムの入学定員を入学者数とみなし記載している。加えて、理学部理学科数学プログラム及び数理学部理学科数学プログラムの入学者数の内数である女子学生数等は理学科の入学者数（217人）に対する女子学生数等（女子学生数56人、社会人学生数0人、留学生数0人）の割合から算出した。なお、令和7年度に数学プログラムに30人、数理学部理学科プログラムに29人配属した。